

Ⅲ 一年間の取り組みから見えてきたもの

1 一年間の取り組みから見えてきたこと

(1) 5つの地域会議と全体会をとおして得られたこと

- ① 顔が見える関係で「その地域にどんな生活課題があるかを実感としてつかめることが大切。
- ② 支援する組織や団体は努力しているが、それぞれ「できないことや課題」がある。
- ③ 支え合いをすすめるポイントは、支援する団体や組織の側がどう補い合えるかにある。
- ④ 公的セーフティネットも不可欠、

(2) 「地域における支え合い（新しい公共）」とは

この経験から、「地域における支え合い（民間の主体的な相談のネットワーク）」をつくるうえでは、それぞれの地域ごとに、顔が見える関係にある、住民組織、地域のボランティア、専門機関、専門家、協同組合、社会福祉協議会、各種サービス、事業者、行政を含む関係者があつまり、地域の住民の生活のありのままが必要としていることを共有し、それぞれが持っている「社会資源」を生かして、その生活をどのように支えることができるかを話し合えることが大切であるといえます。

それぞれの得意分野や専門性を生かして、様々な側面から生活の支え合いの方法を実感し学び合い、共有しあうプロセスを大切にすることにより、それぞれの役割を果たしつつ、できないことを補い合える関係がわかります。

そのことで、支え合いの新しい解決力が生まれ、分野や専門性でわかれている「社会資源」が、一人の生活を支えるネットワークとして再構築されてくることがわかりました。

(3) 「地域における支え合い事業」ですすんだこと

…「安心して暮らせるネットワークづくり」に対比して

① 地域（まちづくり）のネットワーク

ア. 安心して暮らせるネットワークづくりでは、主として、商店街の活性化やまちづくりのイベントをとおして地域の交流をすすめました。

イ. 地域における支え合い事業では、地域ごとに、行政・社協・自治会・民生委員、諸団体の参加があり、地域につながった場になりました。

農業協同組合、医療生協、大学生協などの地域とむすびついた取り組みが紹介され、地域生協だけでなく多くの協同組合が進めている地域の支え合いについて情報交換することができました。

② 生活支援のネットワーク

ア. 安心して暮らせるネットワークづくりでは、コープ相談センターに寄せられた困りごとを、くらしたすけあいの会、ワーカーズ、配食グループなどにつないでいました。そうした団体の活動が少ない地域では生活支援に応える力が限られていました。

イ. 地域における支え合い事業では、モデル地域ごとに、生活支援の交流会や見守り隊の発足、登録など担い手づくりが一歩進みました。

③ 医療・福祉のネットワーク

- ア. 安心して暮らせるネットワークづくりでは、主としてコープあいち福祉事業の専門職（ケアマネジャー、ヘルパー）が参加しました。また社会福祉法人や医療生協の参加もありました。
- イ. 地域における支え合い事業では、地域包括支援センター、障害者自立支援センターなどの専門機関をまじえて話し合いました。
医療生協の取り組みを具体的に学びました。

④ 相談窓口と事業のネットワーク

- ア. 安心して暮らせるネットワークづくりでは、コープ相談センターや小幡店のいっぷく茶屋などが相談の窓口になっていました。
- イ. 地域における支え合い事業では、コープ相談センターやいっぷく茶屋も地域との新しいつながりができました。
モデル地域ごとに相談窓口と担い手ができてきています。
コープあいちのグループ購入・店舗・福祉事業等の直接の参加で当該地域での関わり方が具体的にってきました。

⑤ 生きる権利を守るネットワーク

- ア. 安心して暮らせるネットワークづくりでは、身元保証のNPOあいちあんきネットの経験や、雇用失業問題などの交流が行われました。
- イ. 地域における支え合い事業では、実施した困りごと調査や、専門機関などそれぞれに寄せられる相談事例の中から、公的機関で行われる施策へつなぐことの必要性が話し合われました。

(4) コープあいちとして、「地域における支え合い事業」から学んだこと

① 地域におけるつながりの強化

- .. 顔が見える話し合いができたこと
- .. 地域で生活し役割を担っている生協組合員の存在、発言、実践があること

② 取り組む「地域」の範囲の設定について

- .. 「学区」でも広く、生活課題を共感共有できる範囲が望ましいこと
- .. 一方で、奥三河のように広大な地域では、背景や課題が共通しており、限られた社会資源を相互補完できるつながりが大切なこと
- .. 顔が見える「居場所づくり」、気軽に相談できる「いっぷく茶屋」のような場が大切なこと

③ コープあいちの事業の関わり方

- .. 夕食宅配、中山間地域の個人宅配、お店のジェット便、移動販売車、福祉事業（ケアマネジャー）、地域包括支援センター（豊橋）、コープ相談センター、サービス事業の提携先などの連携、つながりが大切なこと
- .. コープあいち単独でなく「できることを地域の他の事業者の皆さんとともにつくる」こと

④ 「コープあいち」が地域社会の一員となり、地域住民や地域の他の事業者から問い合わせや相談をいただくことにつながっていくこと

⑤ コープあいちの地域担当職員への期待

… 徘徊ネットワークへの登録、子どもの登下校時の見守り、地域の生活の支えなど、地域担当職員が地域の取り組みに参加することへの期待は高いこと

2 モデル事業を引き継ぎ、各地域の取組みに広げ、つないでいくために

(1) モデル事業を継続し、各地に広げていく

- ① コープ あいちは、生協の可能性を活かし、地域のささえあいをすすめます。
住民（生協組合員・職員を含む）、自治会、行政、社協、地域包括支援センター、各種協同組合やNPOなどと、地域で支え合いをすすめる話し合いに参加します。
- ② 地域の支え合いを強める話し合いのステップとして以下のことを大切にします。
 - ア. 顔が見える、人と人との関係で話し合える場にします。
 - イ. それぞれの思いや経験を交流することで学び合います。
 - ウ. アンケートなどで、地域の一人ひとりの困りごとや要望を掴みます。
 - エ. お互いが取り組んでいる、地域の支え合い資源を「見える化」します。（マップなど）
 - オ. 「支え合い交流会」などで、実践されている問題解決の方法を検討します。
 - カ. それぞれの地域に応じて、必要なこと、できることを協力してめざします。
 - (ア) 相談窓口の広がり
 - (イ) 見守りの担い手づくり
 - (ウ) 居場所づくり
 - (エ) 買い物支援
 - (オ) 住民参加の学習
- ③ これらが継続できる仕組み（事業）と・情報共有など、大切なテーマについてもその進め方について検討をすすめます。

(2) 県下各地で広げるために

- ① 協働ロードマップ（本冊子）を、市町村、社会福祉協議会、地域包括支援センター、地縁組織、NPOなどへ配布し、取り組み事例を報告、紹介します。
- ② コープあいちとして、各地域での話し合い、取り組みに参加します。
- ③ 災害、広域避難者支援でも活かしていきます。